

平成 21 年 10 月 29 日

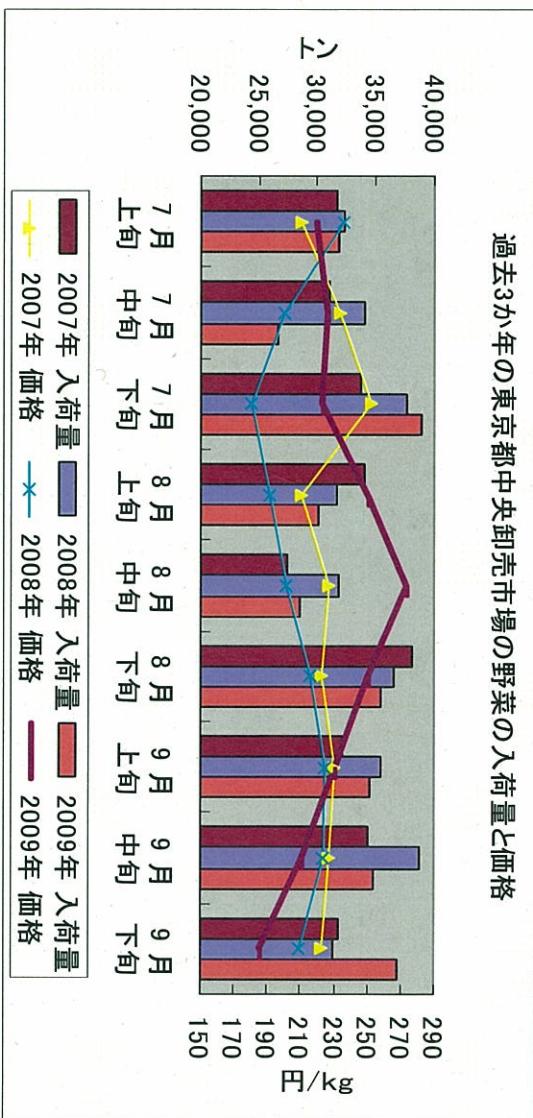
[第 5 回野菜需給・価格情報委員会資料]

平成 21 年夏期の野菜の状況と対応について

全国農業協同組合連合会

1. 平成 21 年夏期の野菜の価格について

(1) 7~9 月期の野菜の入荷量と単価の推移について



(2) 概況

- ア. 7 月の価格は、全体としては安かった前年を上回ったが、キャベツ(同 86%)、白菜(同 91%)などは前年を下回った。
- イ. 7 月末以降、梅雨明けが大幅に遅れ、全国的に長雨および日照不足などの影響により、8 月中旬にかけて価格が上昇した。
- ウ. 8 月に高かった品目：たまねぎ(前年比 7 月 147%、8 月 182%)、ばれいしょ類(同 139%、174%)など
- エ. 8 月後半からは天候も順調に推移し、出荷量の回復もあり、価格は下落傾向となつた。

2. 価格低落への対応について（白菜・キャベツの対応について）

(1) 7月の状況

ア. 白菜

(ア) 主産の長野県産は、昨年が遅れ気味のスタートで6月は平年より少ない出荷量だったが、今年は平年並みのスタートとなり、7月に入っても引き続き順調な出荷となった。

(イ) 7月の価格は、上旬は52円（キロ当たり、以下同様）、中旬に入り出荷量は落ち着いたが価格は60円と、過去の平均価格（82円）を下回って推移した。

（ア）群馬県産（群馬県本部）の出荷数量は7月13日の週は日量10kg換算で15～16万ケースで推移。21日の週の後半には日量10kg換算で20万ケース前後の出荷となり、その後も日量20万ケースを越える出荷が続いた。

(イ) 7月の価格は、上旬65円、中旬60円、下旬66円と、過去の平均価格（74円）を下回って推移した。

(2) 主な対応

ア. 消費拡大に向けた取組み

(ア) 集中店頭宣伝：7/4～8/2まで緊急宣伝を含む述べ400店舗（長野 白菜）

(イ) 関東、中京地区の主要量販店店頭でのフェアおよび新宿高島屋での無償配布（群馬 キャベツ）など

イ. 野菜需給協議会幹事会での状況報告（平成21年7月21日）

ウ. 緊急需給調整事業の発動

(ア) 品目：白菜

(イ) 対象日：平成21年7月下旬

(ウ) 対象市場：関東ブロック及び近畿ブロック

（単位：トン）

県団体名	緊急出荷 調整 計画数量	実施数量	
		有効利用用 途	土壌還元 計
全農長野県本部	1,125	0	1,119 1,119

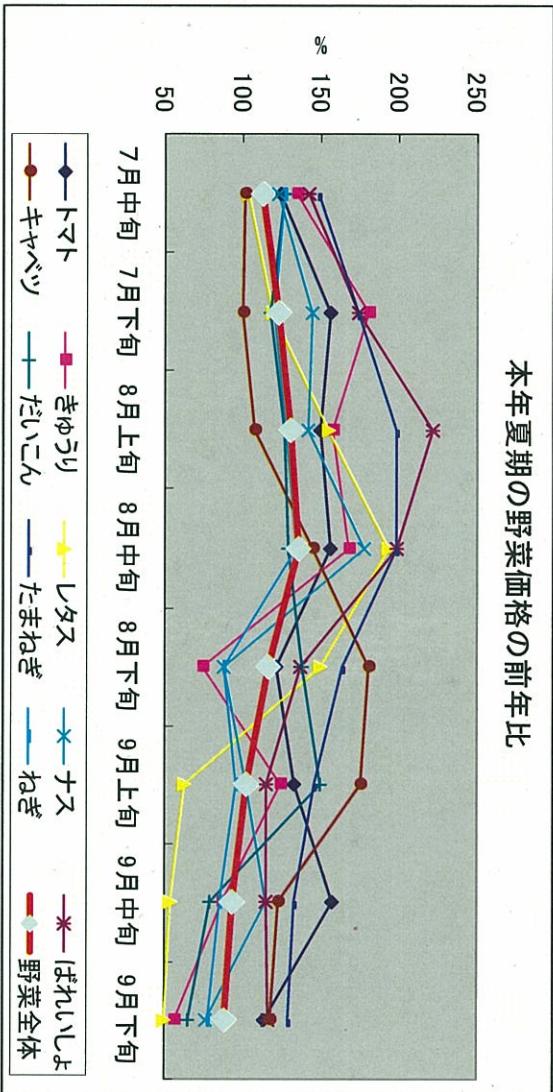
内訳：関東ブロック721.4トン、近畿ブロック397.6トン

* キャベツについては、事業発動は実施しなかった。

3. 価格高騰時の対応について

(1) 野菜価格の状況

主な野菜の価格の前年比



(2) 対応

ア. 野菜需給協議会幹事会（平成21年8月11日）において、産地状況等を説明

*同日、同幹事会において農水省より「野菜の供給確保について」（出荷の前倒し対応等）の文書手交

イ. 本会より野菜産地に對し、出荷促進等の要請を実施（平成21年8月12日）

*対象品目：ばれいしょ、たまねぎ、だいこん、きゅうり、なす、トマト

*産 地：ホクレン、青森、岩手、秋田、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、山梨、長野、岐阜、兵庫、徳島、愛媛、佐賀、熊本

(3) 産地の取組み例

ア. 選果・選別作業の前倒し実施（ばれいしょ等）

イ. 規格外品の出荷対応（きゅうり、たまねぎ、トマト等）

*直売所向け用の市場向け出荷および未成熟品等の出荷も検討したが、取引先の理解が得られず断念した産地もあった。

以上